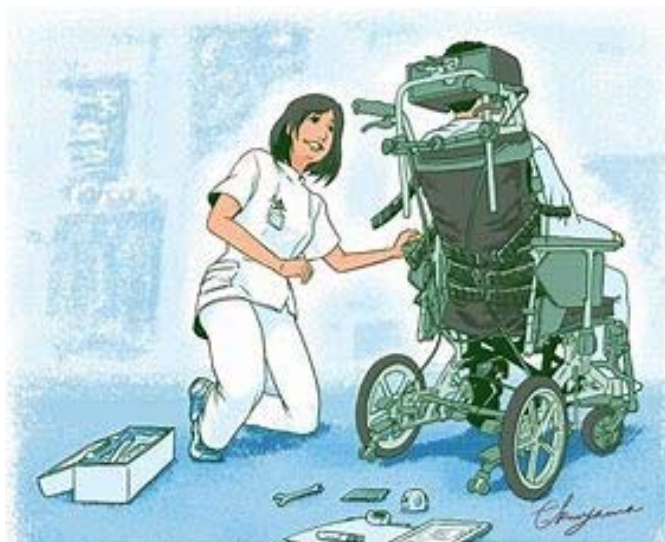


褥瘡を防ぐための姿勢

～シーティング・ポジショニングを活用して(実践編)～



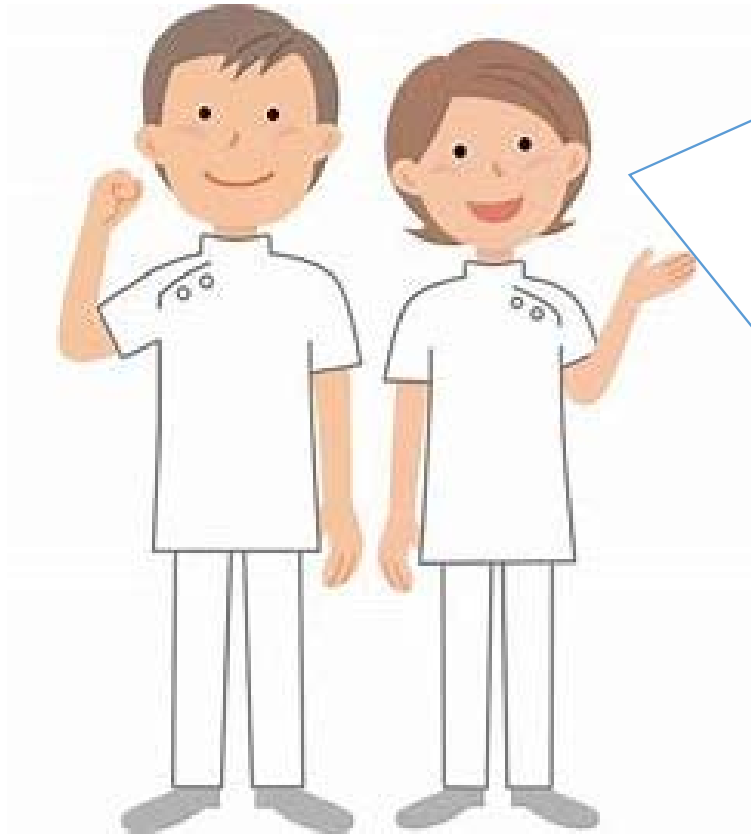
JCHO宮崎江南病院 リハビリテーション部
シーティング・コンサルタント
作業療法士

チームにおける褥瘡対策



褥瘡対策として
様々な職種が関わることが
ステータスとなっている。
各職種からの視点や評価が
重要！

姿勢の視点から伝えること



創部に圧がかからない姿勢の提示

○日中活動のスケジュールリング

○休息時の安全な姿勢

○体交やケアの手順やポイント

○安全な食事活動の提供

など

実際の褥瘡対策について事例紹介

- ①シーティングによる車椅子環境の提案を施設職員と共有した例
- ②シーティングに問題が無く難渋した例



症例①紹介

70歳代 男性

診断名：左坐骨部褥瘡

既往歴：頸椎損傷（C7）

現病歴：施設入所中褥瘡形成。治癒傾向にない為OPE適応として入院

ADL：車椅子駆動および食事（セッティング 有）以外全介助

社会資源：身障手帳1級（脊損区分）施設入所中

本人のニーズ：車椅子を漕いで自由に動きたい

姿勢

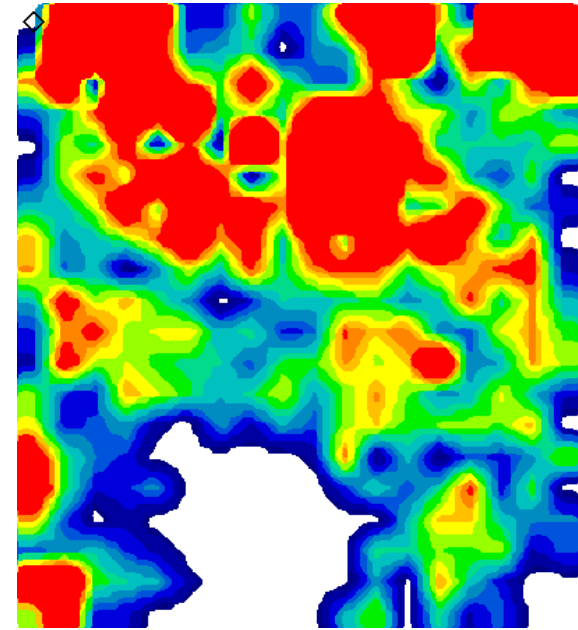


- 著明な脊柱変形や骨盤の変形ー
- 座位バランス不良 (Hofferの分類：座位不可)
- 無理な姿勢維持による筋緊張↑ および痙性+

車椅子環境

permobil

ロホ・クアドトロセレクト ロータイプ



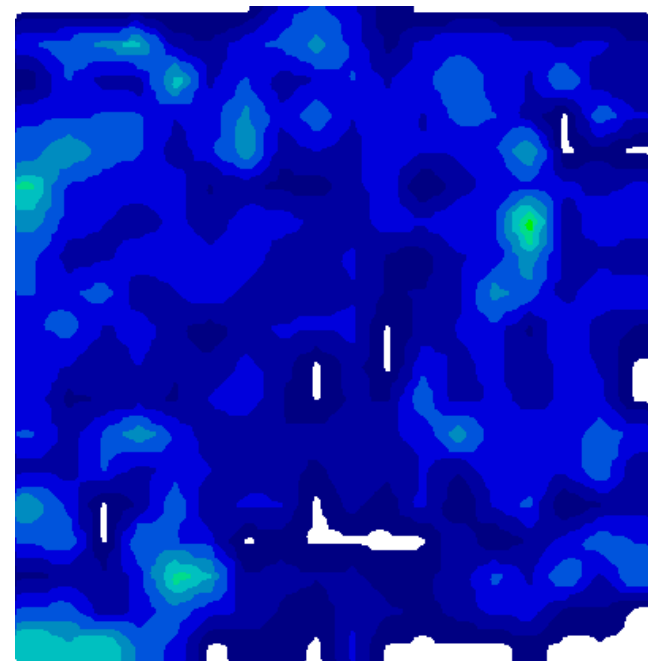
使用クッション：ロホクッション（ロータイプ）

本人の身体機能にそぐわない**厚さ**のクッション使用



結果、全体的に圧が高く、褥瘡リスク大

指導内容（車椅子環境の調整）



○バックサポート（アイコンバック）

○クッションの厚さの調整（ロホハイブリットエリート 8cm）



結果：車椅子座面の除圧効果+

症例②紹介

症例：40代男性 診断名：左坐骨部褥瘡

現病歴：X年12月～3月まで左坐骨部褥瘡の加療で入院退院後より左坐骨部に浸出液貯留あり。外来にて処置および座圧調整行うも、改善見られない為入院。

既往歴：脊髄損傷（Th10以下完全麻痺） 左坐骨部褥瘡（5回）

右股関節亜脱臼

合併症：頸椎症

症例②初期評価

□機能面

Hofferの座位機能分類：I（下肢拘縮, 骨盤左側屈）

□車椅子（クイッキ—+ロホクッションハイ）

座圧：両坐骨50mmhg代 駆動時：姿勢のずれ（—）

□ADL面（FIM 116/120 階段, 洗体のみ減）

座位時間：90分（1日複数回移乗, 臀部のずれ無し）

左坐骨への負荷が目立つ要因みられず・・・

靴履き動作の評価（発生要因の検討）



□使用機器

プレディア（モルテン）

□座圧

26mmhg～30mmhg

□ずれ力

8.0～8.6N（推奨応力：4N）

長軸方向へのずれ力+（総合評価：High）

事例紹介より

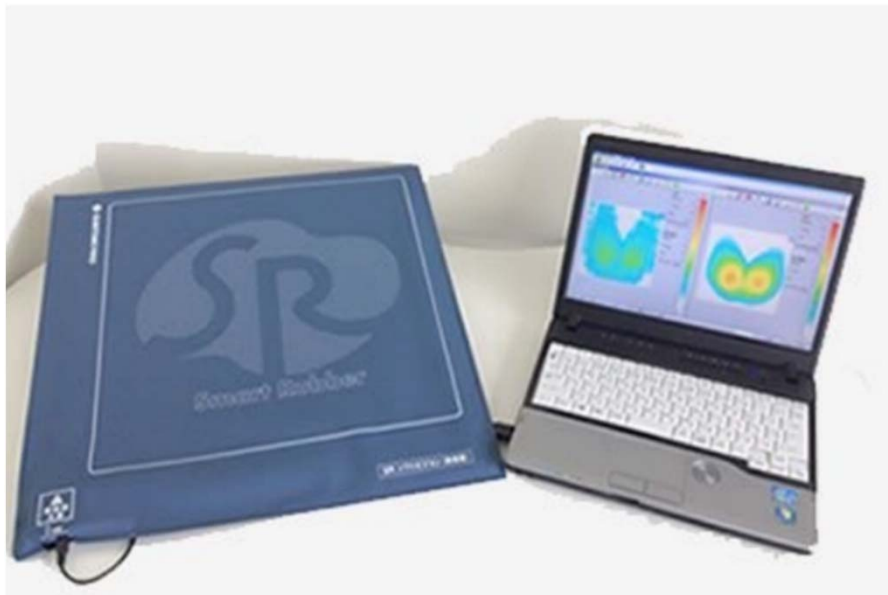
1. シーティングが必要な症例は車椅子を購入（レンタル）した時期の身体機能と現在の身体機能の不一致が原因であることが多い。
2. 褥瘡対策におけるシーティング・ポジショニングは重要な対策のひとつであるが、必ずしも解決の要因とはならず、様々な進展で評価することが重要。

創傷外来における シーティング・ポジショニング①



- 毎週形成外科にて月・水午前中に実施
- Drからの依頼でシーティング・ポジショニングの実施と提案
- 褥瘡対策の経験が豊富な作業療法士やシーティングコンサルタントが実施。

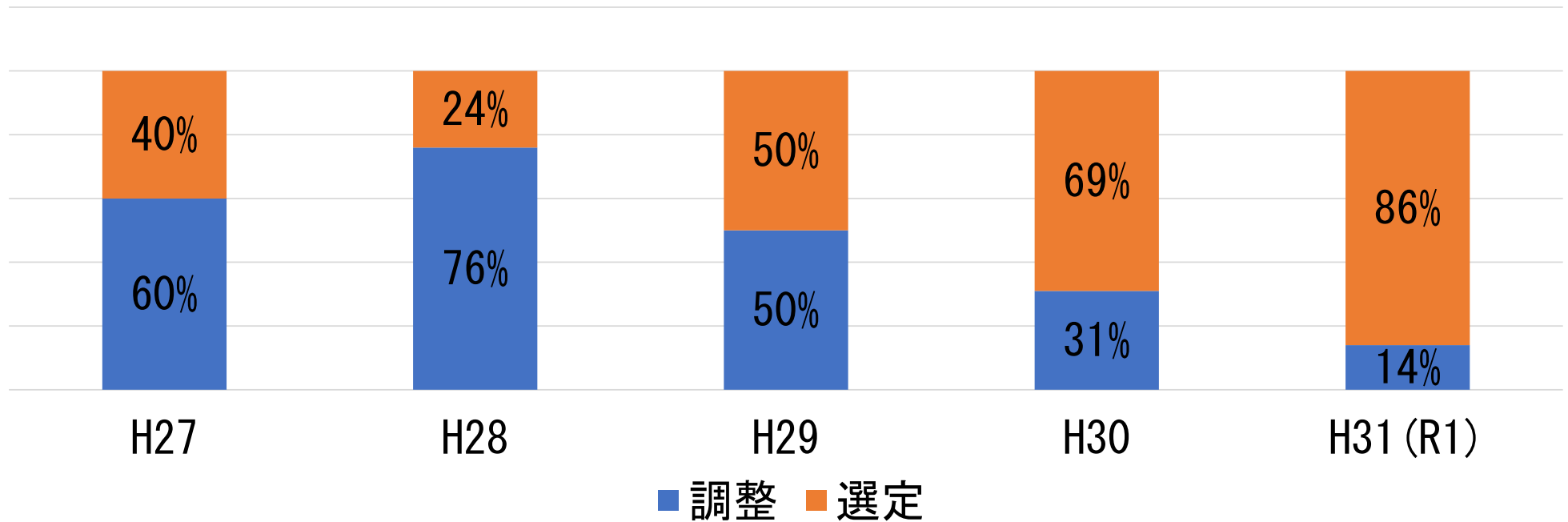
創傷外来における シーティング・ポジショニング②



評価機器を用いて、「根拠のある姿勢評価」を提供いたします。

シーティング外来での年度別の内訳

車椅子・クッションの
調整・選定割合



調整よりも選定が必要なケースが多くなっている。

具体的な対象例

車椅子およびクッションの調整

- ・ 高機能な車椅子を使いこなせていない
- ・ 高機能なクッションの間違った使用方法

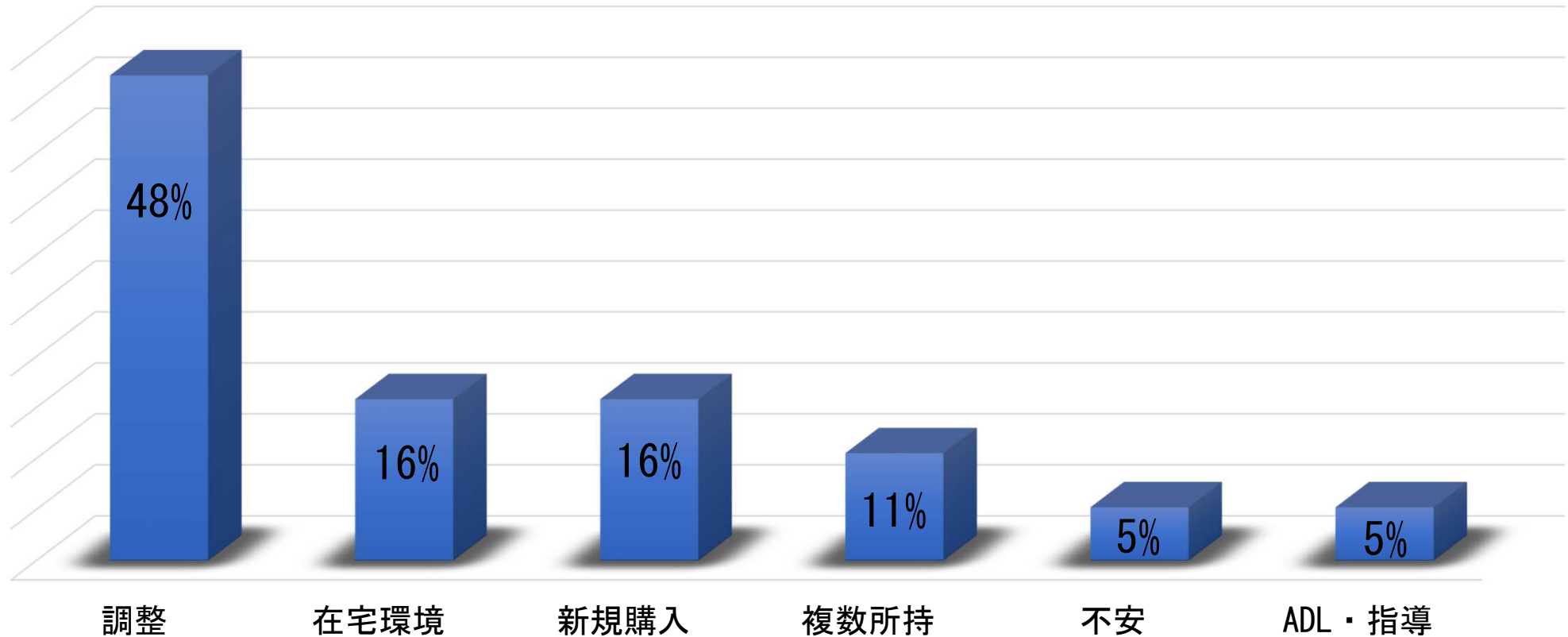
車椅子およびクッションの選定

- ・ 車椅子やクッションを所有していない
- ・ 使用方法の異なる車椅子やクッション（不適合）
- ・ 車椅子やクッションの劣化

他職種との連携が必要な例が多いことが示唆。

シーティング外来にて難渋する例の要因

複数回来院の要因



車椅子やクッション関連の要因が8割近く占めている。
(調整の継続ができない, 新規購入, 複数所持)

具体的な例



車椅子関連

- 車椅子やクッションの調整が自己流
- 用途別（屋内用・外用など）評価・調整
- 座位時間が守れない



環境関連

- 自家用車に積めない、廊下を通らない
- 移乗しにくい

その他

- 不安により受診することが日常化

まとめ

- 褥瘡対策において、シーティング・ポジショニング等の姿勢ケアは重要な対策のひとつであり、チームで意図を共有することが重要。
- 車椅子の機能と身体機能の不一致が褥瘡発生に関わりやすいが、それ以上に広い視野で評価をしていくことが必要。
- シーティング・ポジショニングで良い姿勢を提供した後はどうやって生活場面に組み込んでいき、維持が行えるかが重要。